



車内の金城学院大学

123限目

「オペラ演習」

7/14(日)
オープンキャンパス開催!

 **130**
Dignity & Humanity
KINJOGAKUIN ANNIVERSARY 2019

「高い声が出せるから「ソプラノ」とは限らない？」

〔声楽における声種〕

音楽の授業などで合唱を行う時、高音が出せる人はソプラノに、低音がよく響く人はアルトに選ばれることがあります。これは「声種」と呼ばれ、大きく分類すると女声はソプラノ、メゾソプラノ、アルト、男声はテノール、バリトン、バスの6種に分かれます。この声種は、声の音域だけで判断し分類されると思われがちですが、実はそうではありません。例えばオペラでは若い女性を演じるソプラノは、明るく華やかな声重視されます。一方、母親や大人の女性を演じることが多いアルトは、落ち着いた深みや丸みのある声重視されます。つまり演じる役柄に合った声の色が求められるため、たとえ高い声が出せても「アルトに向いている」というケースもあるのです。このように、人の声を楽器としている「声楽」は、声の特性や色合いによって声種が決められ、楽曲や詩、物語の世界観を表現しているのです。

音楽を深く学び、豊かな表現方法を身につける。それが文学部 音楽芸術学科。

強く、優しく。



金城学院大学